



**高市政権の世界戦略**  
**国内に跋扈 (ばっこ) する親中派工作員**

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は、高市総理が考えている世界戦略についてお話しします。「そんなもの持ってないから存立危機事態発言をして、今みたいな混乱になったんだ」と言う方がいるんですが、そんなことはありません。高市総理の頭の中には、安倍晋三が描いた世界戦略というのがちゃんと入っているんですね。

安倍晋三が語っていた世界戦略とは何か。外務省のホームページ、防衛省のホームページにちゃんと書いてあります。でも、そんなの見る方、まずいないでしょ。そこで今日は、私が解説させていただきたいと思います。

存立危機事態宣言ということについて、問題発言だということで、中国が怒り狂ってるんです。高市総理はそれに1ミリも動きません。「何の戦略もなく、そんなことをやってしまった」と、散々責めてるコメンテーターたちがいるんですけど、何を言うてんねんと。総理はちゃんと、世界戦略に基づいて振る舞っておられると思います。高市総理が考えている世界戦略は、大筋においては安倍元総理が提唱した「開かれたインド太平洋戦略」に基づいているんです。



今年9月、北京で「対日戦争勝利80周年記念」がありました。ロシアからプーチン大統領、中国代表の習近平、北朝鮮の金正恩が、史上初で3人並んだんですよ。

今世界を見渡すと、権威主義的な国、例えばロシア。国連常任理事国ですよ。安全保障理事会常任理事国の

ロシアが、ウクライナに侵略戦争やっている。

同じく常任理事国の中国は、台湾を取るということについて何の隠し立てもしない。30年以上にわたって、軍事費は2桁の伸びで増大し続けている。そして、東シナ海・南シナ海における海洋権益を日々拡大している。これが中国。

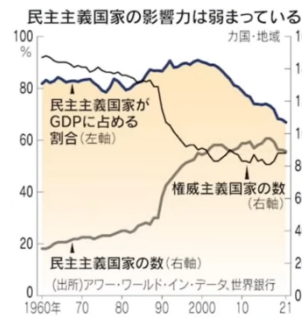
北朝鮮はウクライナ戦争に参加しました。その見返りに、ロシアからミサイル技術や兵器の高性能化、軍事衛星を1個買ったんですよ。もらってるんですよ。そういう権威主義的な国が、武力を使って侵略的に、大きな冒険に出ている。



もう1つのグループはその正反対で、自由民主主義の国々です。今年のカナダサミットのメンバーを見たら分かりますが、今の西側の国々は、はっきり言って力が縮小してます。経済の成長率はどこの国々よりも低い。低成長しかしてない。人口は減少し、産業は空洞化。よそから移民が入って来て、国の中がムチャクチャにな

っている。西側の国々がどんどん元気を失い、縮小している状況の中、アメリカのリーダーであるトランプ大統領は関税・アメリカファーストで、同じ価値観を有している同盟的な国々を痛めつけるということに、あまり躊躇しないですね。アメリカファーストでやっている。

これは日本経済新聞の記事です。『民主主義国家の影響力は弱まっている』



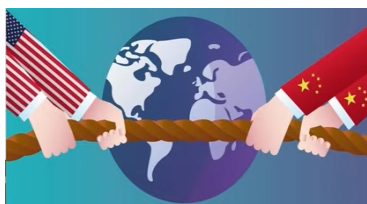
かつて、民主主義国家が世界のGDPに占める割合は80%以上でしたが、今はもう60%台にどんどん減って行ってるんです。民主主義国家も減って行って、今は権威主義国家の数とほぼトントン。いったん民主主義を経験したら、権威主義に逆戻りするなんてあり得ないと思うかもしれませんが、ミャンマー見てください。軍事主義に逆戻りしてるじゃないですか。権威主義的な国は増えてるんです。民主主義の国は減ってるんですね。



世界には自由民主主義の側と権威主義の側の2つがあるんですが、どちらにも所属してない国もあるんですね。グローバルサウスと言われている国々です。

南半球にあるからグローバルサウスじゃなくて、政治力・経済力は基本的にそんなに強力じゃないんですが、経済の成長率がめちゃくちゃ高い。今、世界最高の経済成長率はインド・インドネシア・ベトナム。みんなグローバルサウスです。

同時に、この国々の歴史を振り返ると、植民地支配を受けた、搾取されて来たというものを踏まえて、21世紀の今の段階ではトップではないけれど、潜在力は大変なものがある。さらに、このグローバルサウスの国々の人口を合わせると、世界人口の8割以上なんです。



それで、安倍晋三はこう考えたんですね。地球を中心に左にアメリカ、右に中国で綱引きをしているが、どちらにも所属しないグローバルサウスを西側陣営に巻き込むことによって、権威主義の国々を取り囲んで、抑え込むことが出来るのではないかと。

これは外務省のホームページから取りました。基本骨子は安倍晋三が考えたんです。

自由で開かれたインド太平洋 (Free and Open Indo-Pacific)

【地球規模を視野とした外交】 国際協調主義に基づく「積極的平和主義」

自由で開かれたインド太平洋

国際社会の安全と繁栄の礎を築くのは、「自由の道」・成長の道「アジア」と繋がらねばならない。「自由の道」・成長の道「アジア」と「インド洋」の交わりにより生まれるダイナミズム

インド太平洋地域は、戦後、FPI、ASEAN諸国間の貿易、投資、技術交流が活発化し、成長の道「アジア」と「インド洋」の交わりにより生まれるダイナミズムが顕著に表れている。この地域は、自由で開かれたインド太平洋の発展に重要な役割を果たしている。自由で開かれたインド太平洋の発展は、インド太平洋地域の繁栄と安定、国際社会の発展に貢献する。

アジア

アジア

アメリカはかつて世界GDP70%あったんですね。ところがドンドン落ちて、今は25%です。それでも、一国で25%はダントツですよ。アメリカと同じ価値観を持っている西側同盟国は、全部合わせるとアメリカに匹敵します。アメリカとこれら自由民主主義の国々が歩調を完全に合わせたら、アメリカの力は2倍になるんですよ。

それだけではなく、グローバルサウスを巻き込んでいくことによって、非常に大き

な潜在力を持って、権威主義の国々に対抗することができるのではないか。  
それで、安倍さんが最初の外遊先に選んだのがアセアン、グローバルサウスなんですよ。彼はグローバルサウスと西側を結び付けていくことにおいて、日本はその資格があるし、潜在能力があると考えたんです。

日本は世界経済のランクは落ちたとはいえ4位ですよ。一国で世界4位の経済力。そして、G7の中でアメリカを抜いて第1位の規模の軍事力/自衛隊を持っている。それに、明治帝国議会から始まった民主主義の伝統を考えると、アジア随一じゃないですか。日本はアメリカの筆頭の同盟国ではないですか。  
アメリカファーストで突っ走って行くアメリカの負担を軽くして、グローバルサウスを巻き込んで西側と一つにしていくことで、自由民主主義の価値観を守ることができる。それは日本に課せられている歴史的使命だと、彼は考えたんです。

今の高市政権は、それに則ってやってるんです。民主主義の台湾の防衛はアメリカが守ってくれるけど、アメリカと中国が戦争になって、万が一アメリカが劣勢になった時は、存立危機事態になる可能性がある。でも、それと武力行使はまた別です。それは前回の動画で申し上げたとおりです。

だから、そういうことを言うのは何も変なことではありません。おかしいことじゃないです。今までの政府も言ってきたことなんですよ。今、「そんないらんこと言うから、日本が中国から怒鳴り散らされてるんだ!」「あんなものは失言だ!」「高市さんには先を見る目がない!」みたいなこと言ってますけど、そういう人たちは世界を見てない。

### 『イギリス政府 中国“メガ大使館”建設を容認へ 現地メディア報道』

イギリス政府 中国“メガ大使館”建設を容認へ 現地メディア報道

11/23/21 2:57 AM 195 現地メディア報道 FNNプライムオンライン

ロンドンで中国が進めている新たな大使館の建設計画について、イギリス政府が近く容認する見通しだと複数の現地メディアが伝えた。

建設予定地は王立造幣局の跡地で、広さは約2万平方メートルあり、完成した場合、ヨーロッパ最大級の中国大使館になるとみられています。

一方で、中国当局がこの場所を拠点としてスパイ活動や民主化勢力への監視を強める恐れがあると指摘されており、地元住民や民主活動家は反対の声を上げています。

イギリス政府は安全保障上の懸念などを理由にこれまで承認を保留し、最終判断を12月10日に行う方針を示してきました。

しかし、複数の現地メディアは、政府関係者の話として「スターマー首相が近く計画を容認する方向で調整している」と伝えています。

スターマー政権は中国との貿易拡大を具現させ、中国によるスパイ行為や政治的干渉を監視して、対中関係の緊張が続いています。

中国はロンドンに大使館を持っているのですが、世界最大の大使館を造ろうと、ロンドンの中心部に2万平米の土地を買いました。今からもう7~8年前です。あとは建てたらいいだけ。

ところが、イギリス政府は7年間許可しなかった。住民の反対があったんです。ロンドンには中国で迫害されているウイグルの人たちや、香港から亡命して来た人たちが大勢います。

それにこれ、ロンドンのど真ん中ですよ。シティに近いんです。ロンドンタワーの目と鼻の先。テムズ川の川沿いで、地下には光ファイバーケーブルがたくさんある。「これは通信傍受する可能性が十分あるじゃないか。スパイの拠点になる」ということで反対し続けてたんですが、ウーン条約というのがあって、大使館の移転や設立については、現地政府は邪魔したら駄目なんです。

だから、土地もすでに手に入れている段階で建てさせへんということは、イギリスが国際法違反になる可能性があるんで、本当は許可したくなかったんだけど、7年間も先延ばしして、やむなく屈したんです。

記事の最後に何と書いてあるか。「スターマー政権は、中国との貿易拡大を目指す

一方で、中国によるスパイ行為や政治的干渉を警戒していて、対中関係の緊張が続いています」イギリスと中国はバチバチやってるんですよ。特にスターマーの前までバチバチやってたんです。今でもやってるんですよ。

「高市さんだけが中国とバチバチやって、全然ひるまない。非常識だ！」  
違うんです。中国と揉めてバチバチやってる国は、いくらでもあるんですよ。

今度はドイツです。『崔英文前総統、8日からドイツ訪問 ベルリン自由会議で講演へ』



崔英文はどここの総統ですか？台湾ですよ。11月8日から15日間、ドイツに行ったんです。ドイツが台湾のトップ政治家だった人物を招いて記念講演させてるというので、もうドイツと中国がバチバチの状態、SNSではドイツ首相の悪口がいっぱい書かれてる。高市さんが中国のSNSで魔女みたいな扱いを受けてるってあったけど、ドイツも一緒なんですよ。

そして、ドイツは台湾海峡にドイツ海軍の艦艇を入れているんです。2隻。ここは公海だから全然問題ないんですよ。問題ないけど、「これは中国に対する嫌がらせだ！」「いやいや、そこは公海やし」ここでまたバチバチ。バチバチが続く中で、ドイツはいっぱい嫌がらせを受けてるんです。中国に進出したドイツの車メーカーが中国当局にたくさんクレームつけられて、不備があるからリコールしろとか。中国政府に言われたら動かないとダメだということで、あらぬ疑いを掛けられて嫌がらせを受けている。ドイツと中国、今めちゃくちゃバチバチやってる最中ですよ。日本だけじゃないんですよ。

オーストラリアもそうじゃないですか。オーストラリアは日本と比べたら、経済規模ははるかに小さいですよ。だけどオーストラリアは、新型コロナウイルスが蔓延した時、「発生したのは武漢じゃない？中立機関がちゃんと、どこから発生して、どういうメカニズムで、どのように散らばって行ったのかについて検証すべきだ」と言ったがために、オージービーフ・大麦・石炭とか、例えば関税80%とかね、もう虐めぬかれて、今でもバチバチやってるんですよ。

つまり中国は、気に入らんことを言われたら、中国に依存している国であればあるほど、「中国を怒らせたら困るだろ」と経済のカードを使うんです。なので、台湾はかつては中国に全面依存、8割以上依存していたのに、今は5%くらいじゃないですか。何かというと経済的なことでカードを使って来る。そういうことをしてくる国だと分かっているなら、できるだけ依存しない国になって行こうと考えるのが当たり前じゃないですか。

今回、日本が中国に全面依存しなくてもすむように体質転換していく良いチャンスなんですよ。そして、日本は軸足を自由・民主・開かれたアジア太平洋戦略に従って進んで行く。それが、世界にとっても日本が貢献できる道なんです。高市さんがなさっていることは何もおかしくないと思います。

むしろ、反対している人たちの面々を、今のうちによーく見ておいてください。  
なぜそんなことを言うのか、よーく考えて行こうではありませんか。  
今、色んなことを教えてくださる方がいて、これを情報発信しましたが、これから  
も世界情勢、次は中東問題と絡めてお話しますので、続けてお聞きください。

また、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。  
さよなら！